

調査問題から見える「授業改善のポイント」〈中学校 国語〉

2 二 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる問題 [読むこと] 〈平均正答率 県 61.3% (全国比-1.7)〉

調査結果の分析

- ・二つの文章のうち、片方の文章だけに見られる表現の工夫とその効果を答えた生徒は27.0%であり、どちらの文章にも見られない表現の工夫とその効果を答えた生徒は11.3%である。
- ・「表現の効果」という観点で二つの文章を比較し、共通点について考えることに課題がある。

- 二 [A]と[B]の文章に共通している点。
- 1 主張に関わる言葉を引用することで、敬体でいねいに述べることで、伝
 - 2 問いかけを用いることで、伝えたい
 - 3 冒頭の一文に結論を示すことで、伝



二つの文章に共通している表現の効果を考える

【授業改善のポイント】

○観点を明確にして複数の文章を比較しながら読む学習活動を意図的に設定する

活動例・同じ筆者による異なる文章や同一の話題で主張が異なる文章、立場の異なる読み手を想定した文章など、複数の文章を取り上げて、文章の構成や表現の効果など、観点を定めて文章を読み比べ、共通点や相違点を整理する。

○表現の工夫とその効果について具体的に説明する学習活動の充実を図る

活動例・工夫を感じた表現に印をつけ、ICT 機器などを用いて具体的に示しながら、その工夫がどのような効果につながっているかを説明し合う。

3 三 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題

[情報の扱い方] 〈平均正答率 県 59.3% (全国比-2.5)〉

調査結果の分析

- ・内容のまとまりで文章を的確に分けることはできたが、後半の内容に合う見出しを付けることができなかった生徒は10.7%である。
- ・内容のまとまりで文章を的確に分けることができなかった生徒は28.6%である。
- ・叙述を基に文章の構造を捉えて複数の具体的な内容から共通する要素を抽出し、それを適切な語句を用いて表現することに課題がある。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているもの【判じ絵】と意味しているものが異なるため、解読するには、「判じ絵」こと、つまり、知っていることをもとに「益し算って考える」ことが必要になる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵とつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治以降も時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。




文章を二つのまとまりに分け、後半の内容に合う見出しを付ける

【授業改善のポイント】

○「書くこと」や「読むこと」の指導との関連を図り、具体と抽象という概念について理解する学習活動を意図的に設定する

活動例・抽象的な内容を具体的な事例を用いて説明したり、具体的な事例を抽象的な言葉で言い換えたりして「具体」と「抽象」について、それぞれの意味や関係を理解する。

- ・文章を内容のまとまりごとに分けて見出しをつけ、見出しが文章の内容を適切に表現したものになっているかを話し合う。

○多様な語句について理解を深め、語彙を豊かにする学習活動の充実を図る

活動例・抽象的な概念を表す語句や類義語、多義語、同音異義語など、様々な語句について、意味や用例、他の語句や表現との類似点や相違点をノート等にも書き留めるとともに、多様な場面で意識的に活用する。

自分の考えを、根拠を明確にして書くことについては、改善の状況が見られます。一方、話や文章の内容を正確に理解することには課題があるようです。話や文章に含まれている、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係を丁寧に捉える学習活動の充実を図りましょう。